

日本科学未来館とは

いま世界に起きていることを科学の視点から理解し、私たちがこれからどんな未来をつくっていくかをともに考え、語り合うサイエンスミュージアム。展示をはじめ、トークセッション、ワークショップなど多彩なメニューを通し、日々の素朴な疑問から最新テクノロジー、地球環境、宇宙の探求、生命の不思議まで、さまざまなスケールで現在進行形の科学技術を体験できます。

名 称	にっぽん かがく みらいかん 日本科学未来館（略称：未来館） Miraikan - The National Museum of Emerging Science and Innovation
館 長	浅川 智恵子
運 営	国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）
開 館	2001年7月
所在地	〒135-0064 東京都江東区青海2丁目3番6号
URL	https://www.miraikan.jst.go.jp/

■設立の理念

科学技術を文化として捉え、社会に対する役割と未来の可能性について考え、語り合うための、すべての人々にひらかれた場。

■シンボルマーク



デザイン：廣村正彰

「Miraikan」という愛称についている青いシンボルマークは、正円と、正円を駆けめぐる円弧とで構成されています。「地球と衛星軌道」、「細胞分裂」、「地球上のさまざまなネットワーク（人と人、情報）」、「電子の動き」などをイメージさせるものです。

■Miraikanビジョン 2030

あなたとともに 「未来」をつくる プラットフォーム

大きな変化のなか、未来が不透明ないま、
ミュージアムにできることは、なんだろうか。

未来館がほんとうにつくり、つたえたいもの。
それは、先端の科学技術の成果でもなければ、その知識でもない。

あなたの声が、行動が、世界を変え、未来をつくる。
月を超えて火星へ。人生は100年へ。人もロボットも街もかしこく。地球はずっと美しく。
そんな夢のような未来は、あなたがいるから実現できる。

未来館は、あらゆる人々が立場をこえて、場所をこえて、
つながり、ワクワクし、わたしたちの未来をつくりだすプラットフォームへ。

次の10年、ミュージアムのその先へ。

さあ、はじめよう。あなたと。未来館と。

沿革

日本科学未来館は、科学技術創造立国のための「科学技術基本計画」に基づき、科学技術への理解を深めるための拠点として国際研究交流大学村内に建設され、2001年に開館した国立の科学館です。

1995年 11月	科学技術基本法が成立 科学技術の振興を進めることによって科学技術創造立国を目指すことを目的とした科学技術基本法が成立
1996年 7月	科学技術基本計画が策定 科学技術基本法の成立を受けて総合的・計画的な施策を推進するための科学技術基本計画が制定
1998年 12月	「国際研究交流大学村」の建設が決定 文部省、通商産業省、科学技術庁の三省庁 ^(※1) が合同で、臨海副都心地区に「国際研究交流大学村」を建設することが決定 科学技術庁傘下の科学技術振興事業団 ^(※2) が、この大学村内に最先端の科学技術の展示、展示手法の開発、研究者の交流などを通じて科学技術の情報を発信していく施設を整備することになる *1 2001年1月、省庁再編成により文部科学省、経済産業省の二省となる。 *2 2015年4月より国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)となる。
1999年 12月	着工
2000年 3月	総合監修委員会を設置 日本科学未来館のあり方などについての審議を行うため、JSTに総合監修委員会を設置し、展示計画、活動方針などについて具体的な検討を2000年12月まで重ね、それをもとに館の整備が進められた
9月	施設の名称を「日本科学未来館」に決定
10月	毛利衛が初代館長に就任(現・名誉館長)
2001年 3月	建物が完成
7月9日	日本科学未来館が開館
2004年 7月	名誉館員制度の創設
2010年 10月	日本科学未来館の運営体制の見直し 2009年11月に開催された行政刷新会議「事業仕分け」の結果を受け、予算を縮減しつつ、JSTによる運営業務直執行体制となる 国際総合監修委員会の設置、「Miraikanメッセージ」を発信
2016年 4月	常設展の大幅なリニューアル
2017年 11月	世界科学館サミット(SCWS)2017の開催
2021年 4月	浅川智恵子が館長に就任

日本科学未来館のとりくみ

先端科学技術と人とをつなぐための拠点として、主に3つのことにとりくんでいます。

1. 科学を伝える——先端科学技術と社会を結ぶ場の創造

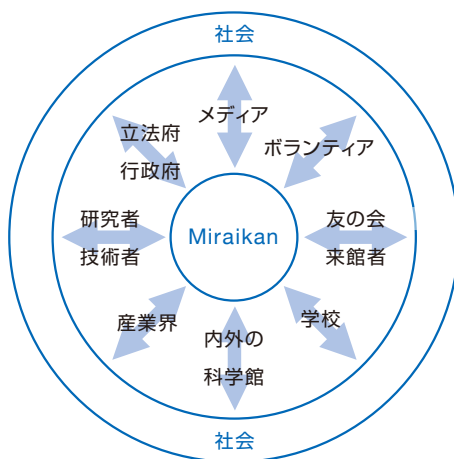
展示、映像、トークイベント、実験教室、オンラインメディアなど多彩な方法で科学技術への興味を喚起しながら、科学技術が未来の社会に何をもたらすのかについて、さまざまな人々の対話を醸成していきます。

2. 人材を育てる——科学コミュニケーターの育成

未来館で行っている「科学を伝える」活動の実践を通して、科学者・技術者と一般市民との橋渡しをする科学コミュニケーターを館の内外に育成しています。

3. つながりをつくる——ネットワークの形成による活動の展開

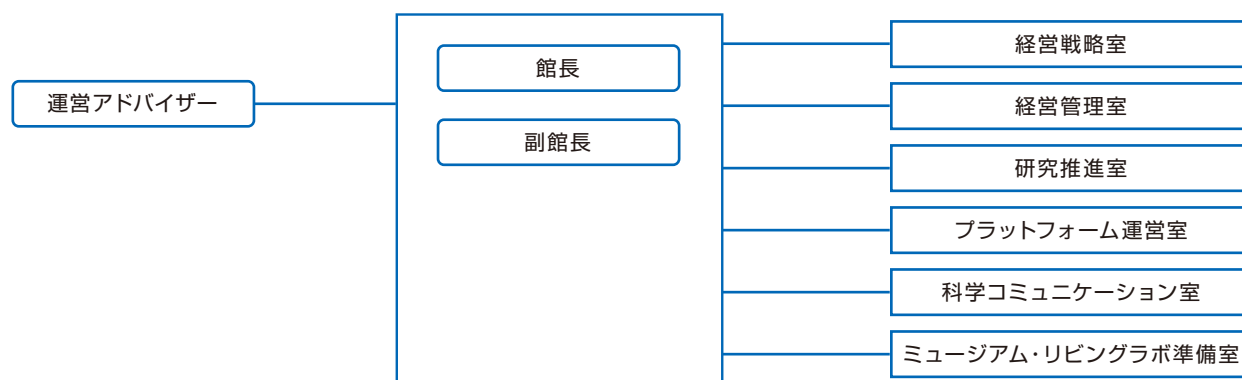
研究者・技術者、メディア、ボランティア、友の会・来館者、立法府・行政府、学校、内外の科学館、産業界など、社会のさまざまなステークホルダーを、ともに活動するパートナーとして捉え、ネットワークを築いています。



組織

■日本科学未来館 役員

館長	浅川	智恵子
副館長	伊藤	洋一
副館長	高木	啓伸
運営アドバイザー	榊	裕之



2023年4月1日現在

日本科学未来館の事業運営について

未来館の的確な事業運営を図るため、以下に示す外部の有識者により構成される「日本科学未来館アドバイザリー委員会」を設置しています。アドバイザリー委員会では、未来館の活動実績や事業運営方針などについて評価・助言が行われます。

アドバイザリー委員会

委員長

村井 純／慶應義塾大学 教授

委員（五十音順、敬称略）

稲見昌彦／東京大学先端科学技術研究センター 教授

江守正多／国立環境研究所地球システム領域 上級主席研究員

片岡真実／森美術館 館長

金出武雄／カーネギーメロン大学 ワイタカー記念全学教授

篠田謙一／国立科学博物館 館長

柴崎敦子／株式会社DINOS CORPORATION 取締役

染川香澄／ハンス・オン プランニング 代表

早川 茂／トヨタ自動車株式会社 代表取締役副会長

松永道隆／日本放送協会報道局報道番組センター チーフ・プロデューサー

森 美樹／日本学術会議アドバイザー・会長補佐(広報担当)

2023年3月31日現在

日本科学未来館 名誉館員

名誉館員制度は、開館3周年を記念して2004年7月に創設されました。この制度は、科学技術に特に顕著な貢献によりノーベル賞など国際的に認められる賞を受賞され、未来館への理解と協力をいただいた研究者を顕彰し、未来館として敬意の念を表するものです。

■名誉館員（順不同、敬称略）

野依良治／2001年 ノーベル化学賞
ティモシー・ハント／2001年 ノーベル生理学・医学賞
田中耕一／2002年 ノーベル化学賞
江崎玲於奈／1973年 ノーベル物理学賞
ルドルフ・マーカス／1992年 ノーベル化学賞
小林誠／2008年 ノーベル物理学賞
鈴木章／2010年 ノーベル化学賞
山中伸弥／2012年 ノーベル生理学・医学賞
バラク・オバマ／2009年 ノーベル平和賞
ブライアン・シュミット／2011年 ノーベル物理学賞
ダニエル・シェヒトマン／2011年 ノーベル化学賞
白川英樹／2000年 ノーベル化学賞
ジョン・ガードン／2012年 ノーベル生理学・医学賞
梶田隆章／2015年 ノーベル物理学賞
大村智／2015年 ノーベル生理学・医学賞
ムハマド・ユヌス／2006年 ノーベル平和賞
吉野彰／2019年 ノーベル化学賞
本庶佑／2018年 ノーベル生理学・医学賞
天野浩／2014年 ノーベル物理学賞
大隈良典／2016年 ノーベル生理学・医学賞

2023年3月現在

常設展示監修者

■展示監修者一覧（順不同、敬称略）

●世界をさぐる

■ニュートリノから探る宇宙

梶田 隆章

■加速器で探る素粒子と宇宙

山内 正則

■ともに進める医療

高坂 新一

笹月 健彦

■こちら、国際宇宙ステーション

毛利 衛

■地球環境とわたし

船岡 正光 常松 俊秀

飯田 哲也 藤野 純一

工藤 昭彦 松本謙一郎

田口 精一 本島 修

田近 英一 安井 至

谷口 正次

■ぼくとみんなとそしてきみー未来をつくりだすちから

松沢 哲郎

廣中 直行

■細胞たち研究開発中

浅島 誠

山中 伸弥

京都大学 iPS細胞研究所[CiRA]

岡野 栄之

斎藤 通紀

櫻井 英俊

中内 啓光

中川 誠人

山田 重人

■100億人でサバイバル

毛利 衛

押谷 仁

岸本 充生

田近 英一

●未来をつくる

■インターネット物理モデル

村井 純

佐藤 雅明

■ロボットとくらし

柴田 崇徳

■アナグラのうたー消えた博士と残された装置

柴崎 亮介 堀口 良太

小林 功 前中 一介

中島 直樹

■アンドロイドー人間って、なんだ？

石黒 浩

■未来逆算思考

大垣真一郎 広井 良典

勝川 俊雄 松橋 隆治

木部 暢子 宮廻 正明

花木 啓祐 山本 雄士

■ビジョナリーラボ セカイは微生物に満ちている

伊藤 光平

■計算機と自然、計算機の自然

落合 陽一

伊藤 亜紗

加藤 真平

後藤 真孝

杉山 将

登 大遊

■零壹庵 『AKIRA』の音 不朽のアニメ映画を彩る未知のサウンド

伊東 順二

●地球とつながる

■未来の地層

佐倉 統

本吉 洋一

●“おや？”っこひろば

塩瀬 隆之

西田 佳史

倉田 新

●ドームシアター

■『INHERIT～はやぶさ2・宙への夢と挑戦をのせて～』

吉川 真

■『9次元からきた男』

大栗 博司

■『バースデイ～宇宙とわたしをつなぐもの～』

谷口 義明

2023年3月現在

施設一覧

展示施設

			床面積
シンボルゾーン	1階	シンボル展示が頭上に浮かぶ、6階まで吹き抜けの開放的な空間	600㎡
常設展示ゾーン	3, 5階	3階「未来をつくる」、5階「世界をさぐる」という2つのテーマからなる常設展示スペース	3階: 2874㎡ 5階: 2213㎡
ドームシアター	6-7階	全天周映像とプラネタリウムが楽しめる半球状のシアター	234㎡
企画展示ゾーン a, b	1階	大型イベントや企画展の開催が可能な空間。2分割での使用も可能	1,510㎡ [a: 720㎡, b: 790㎡]
“おや？”っこひろば	3階	親子で科学的な「モノの見方」を体験できる無料スペース	600㎡
コミュニケーションロビー	1階	映像が流れる多目的スペース。日によってイベントも開催します	300㎡

貸出施設

未来館ホール	7階	292人収容可能な、シンポジウムなどの利用に最適なスペース	400㎡
コンファレンスルーム	7階	スクール形式からシアター形式へフレキシブルに対応可能な会議室や、パレットタウンの観覧車が見える木星ルーム、前面ガラス張りの東京湾を見渡せる海王星ルームなどがあります。	木星: 180㎡ 天王星: 110㎡ 土星: 160㎡ 水星: 55㎡ 火星: 60㎡ 金星: 80㎡ 海王星: 105㎡
イノベーションホール	7階	引き出し式の収納席と240インチのスクリーンがある、103人まで収容可能なスペース	195㎡
控室 月 フォボス ダイモス イオ エウロパ ガニメデ タイタン トリトン	7階	ホールやコンファレンスルーム等の利用時の控室にご利用いただけます	月: 19㎡ フォボス: 21㎡ ダイモス: 22㎡ イオ: 22㎡ エウロパ: 12㎡ ガニメデ: 22㎡ タイタン: 14㎡ トリトン: 14㎡

その他施設

多目的ルーム a,b	1階	分割利用でき、多目的に使用できるスペース	[a:64㎡, b:64㎡]
展望ラウンジ/レストラン	7階	お台場周辺から東京タワーまで見渡せる休憩スペース。セルフ形式のレストランも併設。	480㎡
ミュージアムショップ	1階	科学グッズや未来館オリジナルグッズを販売	

常設展「世界をさぐる」（5階）展示名称

コーナー	展示	展示チャプター
 宇宙	加速器で探る素粒子と宇宙	・ぼくらはみんな粒である ・粒子加速器～KEKB加速器とBelle検出器 ・見えてきた素粒子の世界
	ニュートリノから探る宇宙	・スーパーカミオカンデ(1/10模型) ・光電子増倍管 ・霧箱
	こちら、国際宇宙ステーション	・ISSで生きるには？(宇宙居住棟)
 地球	100億人でサバイバル	・ゾーン1: 100億人の命 ・ゾーン2: あなたの命がおかれている状況 ・ゾーン3: あなたの命を守るには
	地球環境とわたし	・地球の今をみる ・本質をとらえる ・未来を描く ・社会の中で語り合う
 ラボ	“ちり”も積もれば世界をかえる ー宇宙・地球・生命の探求	・プロローグ ・地球深部探査船「ちきゅう」 ・小惑星探査機「はやぶさ2」 ・アルマ望遠鏡 ・エピローグ ・LE-7Aロケットエンジン
 生命	細胞たち研究開発中	・5つのiPSストーリー ・くらべる幹細胞 ・あなたと細胞のストーリー ・多様な生物のなかのヒト
	ぼくとみんなとそしてきみ ー未来をつくりだすちから	・1巻 ひとり -自分をうみだす脳- ・2巻 ふたりで -他者を取りこむ性質- ・3巻 みんなと -社会の中で生きる- ・4巻 きみとの未来 -未来をつくりだすちから-
	ともに進める医療	・新しい目でみる ・分子レベルのデータで見る ・体の仕組みをもとに治す ・患者に優しい技術で治す ・ミライアイテム ・治すからふせぐへ
 アクティビティ	オピニオン・バンク	
	コ・スタジオ	
	セカイゲート	

常設展「世界をさぐる」(5階)

私たちはなぜ今、ここに存在しているのでしょうか？ 宇宙や太陽系、地球環境、そしてそのなかで育まれる生命など、私たちをとりまく“世界”のしくみを、さまざまなスケールでさぐるゾーンです。138億年にわたる宇宙の歴史のなかで、人間はどのように生まれ、周囲の世界とどのように関係し合いながら生きているのでしょうか。これらを科学の目で見て感じることで、私たちが未来に進むべき道を大きな視野で考えます。



こちら、国際宇宙ステーション



ニュートリノから探る宇宙



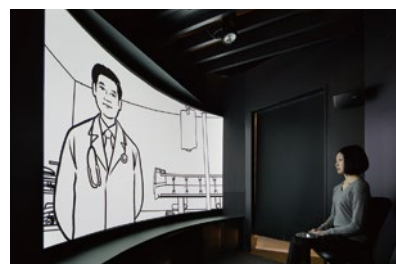
100億人でサバイバル



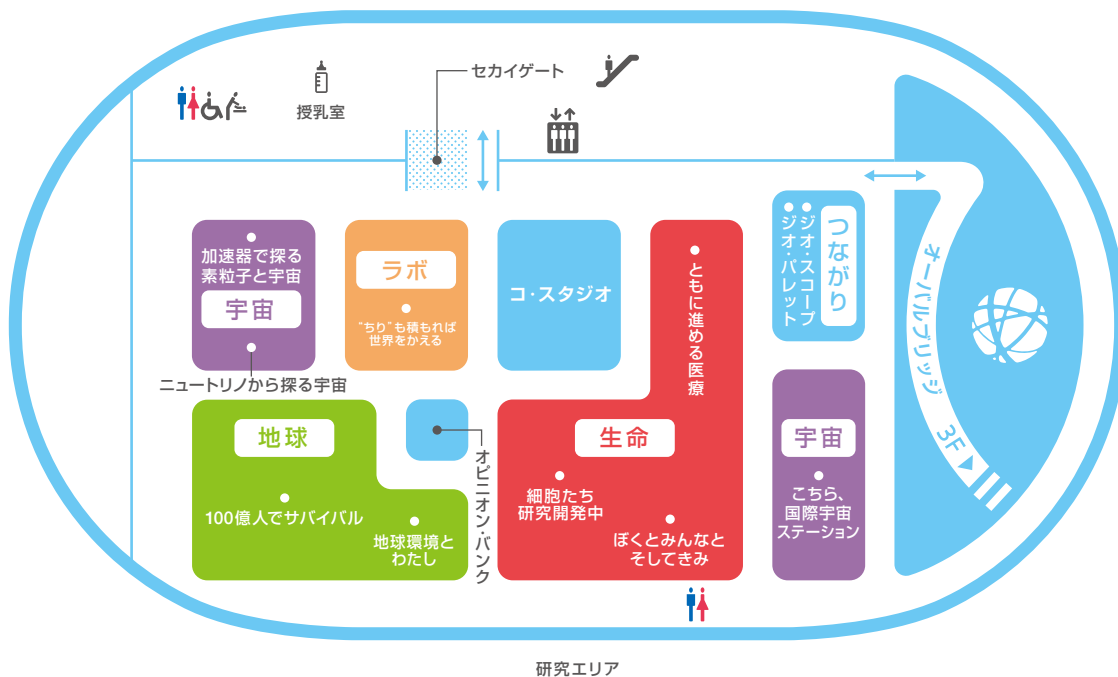
“ちり”も積み重ねれば世界をかえる



ぼくとみんなとそしてきみ



細胞たち研究開発中



5階 展示ゾーン：床面積合計2,213.34㎡

常設展「未来をつくる」(3階) 展示名称

コーナー	展示	展示チャプター
 イノベーション	計算機と自然、計算機の自然	・世界観エリア -導入展示 -計算機と自然、計算機の自然 ・理解エリア -解像度の心得 -「経験」と「法則」を繰り返す人類の物語 -先人たちの計算浮世話
	未来逆算思考	・第1ステージ 50年後に贈りたい8つの理想の地球 ・第2ステージ 地球送り装置と時の流れ ・第3ステージ 子孫からの手紙と研究者からのメッセージ
 ロボット	ロボットとくらし	・セラピー用ロボット「パロ」 ・「ロボット開発のあゆみ」パネル
	アンドロイドー人間って、なんだ？	・オトナロイド® ・オルタ
 情報	インターネット物理モデル	・ターミナル ・ネットワーク
	アナグラのうた —消えた博士と残された装置	・残された装置 -空間情報基盤の構築<ナガメ> -移動情報の計測<イド> -生体情報の計測<イキトイキ> -個人情報の保護<ワカラヌ> -情報の共有と活用<シアワセ> ・博士の机 ・選択機
 ラボ	ノーベルQ —ノーベル賞受賞者たちからの問い	・ノーベル賞受賞者たちからの問い
	ビジョナリーラボ	第3期展示 セカイは微生物に満ちている チャプター1 微生物とは？ チャプター2 暮らしの環境と微生物の多様性 チャプター3 微生物と共生する暮らし チャプター4 人と微生物が共生する未来へ
 アート	零壹庵	
 アクティビティ	ミライゲート	

常設展「未来をつくる」(3階)

これから先、私たちはどんな方法で豊かさを築いていけばいいのでしょうか？私たちが望む社会や暮らしのかたちを描きだし、その夢がどんなアイデアによって実現されるかを考えるゾーンです。70億人を超える地球上で持続可能な社会をつくるためには、どんな科学技術を、どのように使うことが必要なのでしょう。未来の社会を予見させる空間で、私たちが豊かに生きるための知を探ります。



ノーベルQ
—ノーベル賞受賞者たちからの問い



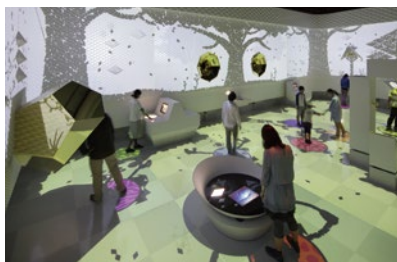
未来逆算思考



アンドロイド — 人間って、なんだ？



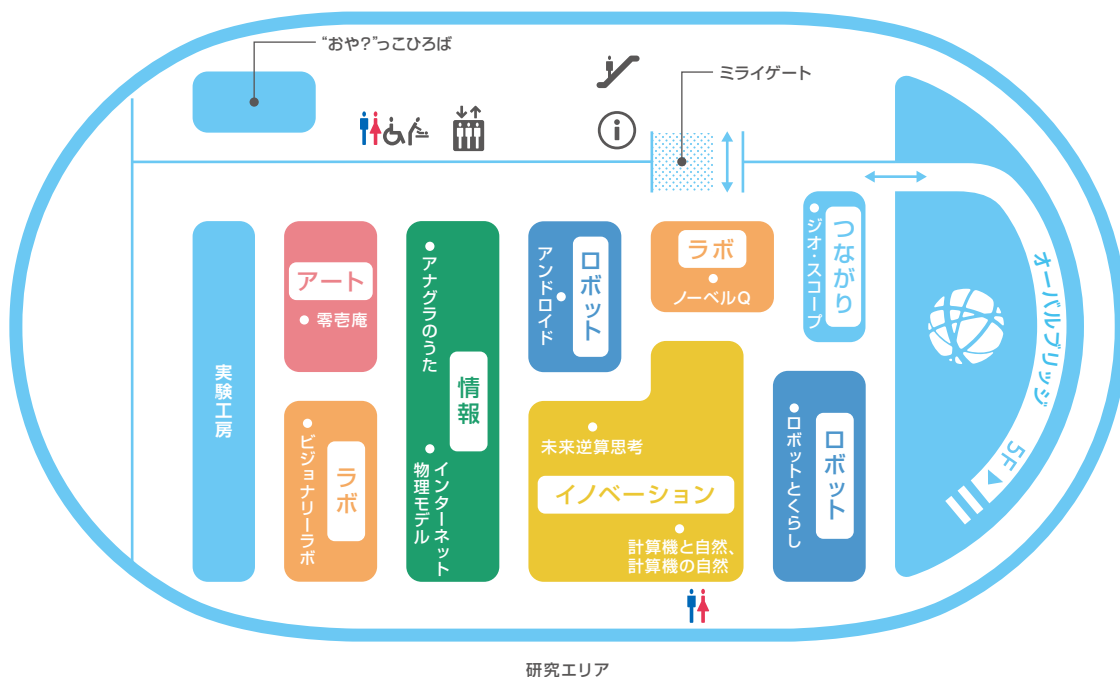
インターネット物理モデル



アナグラのうた



ビジョナリーラボ



3階 展示ゾーン：床面積合計2,874.80㎡

常設展「地球とつながる」（1、3、5階）

私たちは地球について、どれほどのことを知っているのでしょうか？最先端の技術とデータを使って、地球上のあらゆる生命と環境と自分との‘つながり’を感じ、理解するのがこのゾーンです。シンボル展示のジオ・コスモスや、ジオ・スコープ、ジオ・プリズム、ジオ・パレットで地球に関する多様な科学情報を見ることができます。

地球の生態系のなかのさまざまな生命の‘つながり’や、地球46億年の歴史とともにはぐくまれてきた私たち人間と地球との‘つながり’など、地球規模の大きなつながりのなかに人間の存在や自分自身を位置づけてみましょう。未来館の常設展示すべてを包括するゾーンです。

■シンボル展示 ジオ・コスモス

1000万画素を超える高解像度で、宇宙に輝く地球の姿を映し出す日本科学未来館のシンボル展示。最新のLEDパネルへと変化したジオ・コスモスは、リアリティが高く、みずみずしい地球の姿を映し出します。HDR（ハイダイナミックレンジ）対応と高色域化により豊かな色彩表現や光の表現を可能としました。

- ・主要スペック
- サイズ：直径約6m（地球の約200万分の1）
- 重さ：約13t
- 内部構造：ジオデシック正八面体モデル
- 画素数：1000万画素以上
- 発光デバイス：LED（96mm角パネル10,362枚）

コンテンツ例

- ・90日の地球



■ジオ・スコープ

国内外の科学者や研究機関から集めたさまざまな地球観測データへ自由にアクセスできる、インタラクティブボード。大・小サイズのボード計13台が展示フロアに並びます。タッチパネルによる簡単な操作で、地球スケールの情報を思いのままに探ることができます。



■ジオ・プリズム

AR（拡張現実感）技術を用いて、ジオ・コスモスにデータやシミュレーションを重ねて表示できるシステムです。CGと複数のカメラからの映像をダイナミックに織りまぜたデータが、地球上に可視化されます。シンボルゾーンとオーバルブリッジに設置されたタッチスクリーン端末を使って、360度方向から鑑賞することができます。



■ジオ・パレット

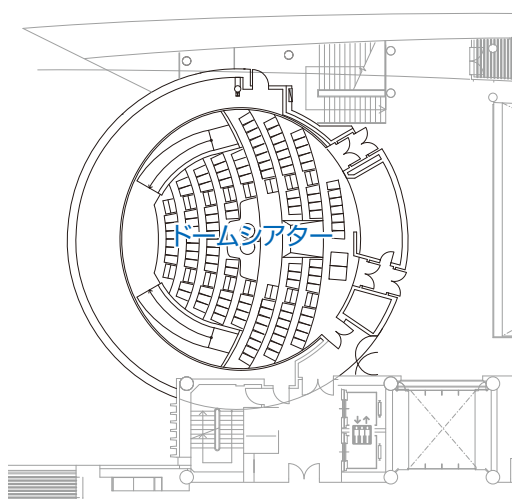
世界の国々や地域に関する多様な情報をもとに、オリジナルの世界地図を描くことができるデジタルコンテンツ。数百種類のデータを自由に選択し、異なるデータを一枚の地図上に重ね合わせて見ることで、地球環境や人間活動の様相をさまざまな観点から再発見することができます。



ドームシアター

6階にあるドームシアターは、半球状の映像シアターです。

全周を覆う広いスクリーンを活かした迫力の大画面映像や、日本初の全天周・超高精細3D映像を使用した立体視プラネタリウム作品など、さまざまな映像プログラムを上映しています。

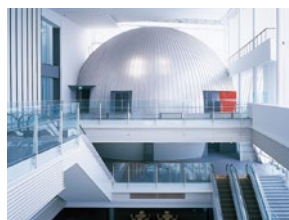


ドーム直径：15.24メートル

ドーム傾斜角：23.5度

席数：121席（全席リクライニング）

音響：7.1チャンネルサラウンドシステム



外観



内観

■映像システム

・映像システム 1：全天周・超高精細立体視映像システム

高精細な映像を高輝度RGBレーザー4Kプロジェクター2台で投影することで、空気感や気配までも感じられるような、明るく鮮やかな映像をドーム型スクリーンに映し出します。アクティブシャッター方式の3Dシステムによる、自然で迫力のある全天周立体視映像を楽しめます。

・映像システム 2：プラネタリウム投影機 “MEGASTAR-II cosmos”

約1,000万個の恒星を投影します。リアルで繊細な星空を活かして、立体視映像システムと連動したプログラムを上映しています。

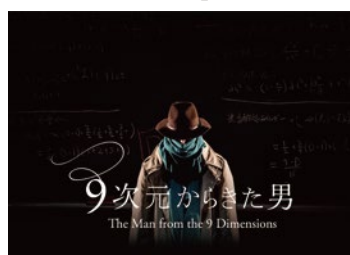
■上映作品 [2023年3月現在]

『INHERIT ～はやぶさ2・宙への夢と挑戦をのせて～』



©Miraikan

『9次元からきた男』



©Miraikan

『バースデイ ～宇宙とわたしをつなぐもの～』



©4D2U Project, NAOJ

■観覧方法

ドームシアターは別料金です。
(大人 310円、18歳以下 100円)

研究エリア

日本科学未来館には研究エリアが併設されています。3 階から 5 階までの展示ゾーンの廊下を隔てた奥では、複数の研究プロジェクトが常駐し、研究活動や科学コミュニケーション活動を行っています。先端科学技術の研究現場を広く公開するという目的から、各研究室の壁はガラス張りになっており、廊下から研究者の活動の様子が見えるようになっています。

現在行われている研究プロジェクト	研究代表者(所属)
●「対話知能学」プロジェクト 人間と知能ロボットや情報メディアが共生する社会を実現するための新たな研究課題である、対話継続関係維持、対話理解生成、行動決定モデル推定、人間機械社会規範からなる新たな学問分野を創成します。	石黒 浩（大阪大学大学院 基礎工学研究科）
●「xDiversity（クロス・ダイバーシティ）」プロジェクト AI 技術による個人最適化技術と空間視聴触覚技術の統合を通して、人機一体による身体的・能力的困難の超克を目指します。	落合 陽一（筑波大学 図書館情報メディア系）
●「運動能力開発・拡張」プロジェクト 人間の身体運動メカニズムを解明し、潜在的な身体能力を開発する科学の構築と具体的な方法論の提案を目指します。	川上 泰雄（早稲田大学スポーツ科学学術院）
●「こどもからみる不思議世界探求」プロジェクト 実験を通して赤ちゃんや子どもが育つ環境を考え直し、赤ちゃんから大人へ、未来社会に適応する多様な個々の発達を支える環境のありかたを捉えています。	山口真美（中央大学 文学部）
●「身体メディア」プロジェクト Cyber Living Lab 人々が自身の身体を通して得る様々な経験を、記録・共有・拡張・創造する未来のメディアテクノロジーを創ります。	南澤 孝太（慶應義塾大学大学院 メディアデザイン研究科）
●「サステナブルバイオテクノロジー」プロジェクト 食品廃棄物などからクリーンエネルギーの水素を生産するバイオプロセスの研究開発を行いながら、サステナブルバイオテクノロジーを広く社会に紹介していきます。	渡邊 一哉（東京薬科大学 生命科学部 生命エネルギー工学研究室）
●「知的やわらかものづくり革命」プロジェクト 材料と加工がデジタル製造に直結するコンビニエンス・ファクトリー概念の実現に向け、「マテリアル&プロセスイノベーション」研究を進めています。	古川 英光（山形大学 ソフト&ウェットマター工学研究室）
●「ヒューマン・オルガノイド」プロジェクト 人工多能性幹細胞（iPS 細胞）などのヒトの細胞から造られた臓器のミニチュア版「オルガノイド」をツールとして、新薬開発や臓器移植への応用を実現するための基礎となる技術開発を進めています。	武部 貴則（東京医科歯科大学 統合研究機構）
●「ミトコンドリア生合成」プロジェクト 構造生物学のさまざまな手法を用いて、ダイナミックに働くミトコンドリアの構造と機能ネットワークの全貌とその制御機能の解明をめざします。	遠藤 斗志也（京都産業大学 生命科学部）

2023年4月現在

研究プロジェクトの詳細については、HPをご覧ください。

[研究プロジェクトについて] <https://www.miraikan.jst.go.jp/research/facilities/>

アプリ／電子書籍

館内の展示ガイドとしてだけでなく、日常生活のなかでも使えるアプリや、研究機関から提供された科学データにアクセスできる電子書籍を無料で提供しています。未来館の外でも展示への理解を深めることができます。

■【アプリ】「Miraikanノート」

「問い」を見つけて、考えて、行動する。未来館が提案する「未来をつくる思考法」を体験できるスマートフォンアプリです。「問い」をきっかけに8つのコースで展示を巡る「クエスト」や、すべての展示のみどころを紹介する音声ガイドは4カ国語に対応。「未来をつくる思考法」を日常で実践できるノート機能も搭載しています。

※音声ガイド：日本語、英語、中国語、韓国語

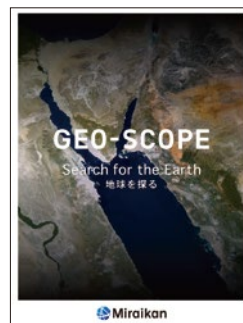
公開日：2016年4月19日／価格：無料／公開元：App Store およびGoogle Play
／対応機種：iOS 8以上、Android 4.4.0以上／クリエイティブディレクション：PARTY／発行者：日本科学未来館



■【電子書籍】「ジオ・スコープ 地球を探る」

地球環境についてのさまざまなデータやシミュレーションにアクセスできる、未来館の常設展示「ジオ・スコープ」の電子書籍版です。タッチパネルによる直感的な操作で新たな地球の姿をさぐる快適な操作感をiPadでもお楽しみいただけます。日射量の季節変化／アジサシの移動／ミツバチの世界地図 など全36コンテンツを収録。

公開日：2016年2月29日／価格：無料／公開元：iBooks Store／推奨端末：iPad Pro、iPad Air以降、iPad mini3以上／発行者：日本科学未来館



■【アプリ】「地球マテリアルブック デザイン×科学のダイアログ」

科学者とデザイナーの対話から生まれた未来館初の電子書籍。2010年に未来館で開催された「デザイン×科学 地球マテリアル会議」の内容をもとに、データやヴィジュアル満載にまとめた本書は、科学解説、デザイン提案、対話記録と多角的な構成。「金属」「プラスチック」「木」の3つのマテリアルを紹介しながら、地球スケールの「大きな時間」のモノづくりを提案します。BCCKS版で、Webと紙本で楽しめます。

企画・制作：日本科学未来館、東京藝術大学美術学部デザイン科／
発行者：日本科学未来館



過去に開催した主な特別展・特別企画 1

先端科学技術がわたしたちにもたらす変化や新しい世界像に焦点をあて、多くの外部組織と連携しながら、さまざまな表現手法やコミュニケーション手法を用いた特別展・特別企画を開催しています。



ロボット・ミーム展
2001/12/1～2002/2/11



サウンドバム プロジェクト展
2002/10/2～10/21



時間旅行展
2003/3/19～6/30



疾走するファイバー展
2004/6/30～8/31



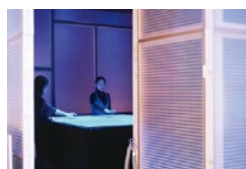
「F.C.R.B.スタジアムプロジェクト」展
2005/4/23～8/15



恋愛物語展
2005/4/23～8/15



サイエンス・トンネル
2005/9/16～11/17



サイエンス+フィクション展
2005/12/10～2006/2/27



脳！
2006/3/18～5/31



「マンモスからの警告」展
2006/7/1～9/3



65億人のサバイバル
2006/10/29～2007/2/5



サイエンスニュース！アジア展
2007/6/2～9/2



地下展UNDERGROUND
2007/9/22～2008/1/28



エイリアン展
2008/3/20～6/16



世界最大の翼竜展
2008/6/28～8/31



お化け屋敷で科学する！
2009/4/22～6/22



‘おいしく、食べる’の科学展
2009/11/21～2010/3/22



きみのみらい・みらいのきみ
2010/3/20～5/10



お化け屋敷で科学する！2
2010/3/10～5/31



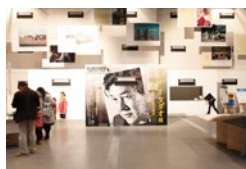
ドラえものの科学みらい展
2010/6/12～9/27



テオ・ヤンセン展
2010/12/9～2011/2/14



メイキング・オブ・東京スカイツリー®
2011/6/11～2011/10/2



ウメサオタダオ展
2011/12/21～2012/2/20



世界の終わりのものがたり
2012/3/10～2012/6/11



科学で体験するマンガ展
2012/7/7～2012/10/15

2023年3月現在

過去に開催した主な特別展・特別企画 2

先端科学技術がわたしたちにもたらす変化や新しい世界像に焦点をあて、多くの外部組織と連携しながら、さまざまな表現手法やコミュニケーション手法を用いた特別展・特別企画を開催しています。



波瀾万丈! おかね道
2013/3/9～2013/6/24



サンダーバード博
2013/7/10～2013/9/23



THE 世界一展
2013/12/7～2014/5/6



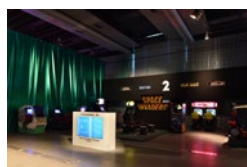
トイレ? 行っとイレ!
2014/7/2～2014/10/5



チームラボ 踊る! アート展と、
学ぶ! 未来の遊園地
2014/11/29～2015/5/10



ポケモン研究所
2015/7/8～2015/10/12



GAME ON
2016/3/2～2016/5/30



The NINJA
-忍者ってナンジャ!?-
2016/7/2～2016/10/10



ディズニー・アート展
いのちを吹き込む魔法
2017/4/8～2017/9/24



MOVE 生きものになれる展
-動く図鑑の世界にとびこもう! -
2017/11/29～2018/4/8



名探偵コナン 科学捜査展
～真実への推理(アブダクション)～
2018/4/18～2018/7/8



デザインあ展 in TOKYO
2018/7/19～2018/10/18



「工事中!」～立ち入り禁止!?
重機の現場～
2019/2/8～2019/5/19



マンモス展
-その『生命』は蘇るのか-
2019/6/7～2019/11/4



「震災と未来」展
-東日本大震災10年-
2021/3/6～2021/3/28



超人たちの人体
2021/7/17～2021/9/5



きみとロボット
ニンゲンッテ、ナンダ?
2022/3/18～2022/8/31

2023年3月現在

大型映像の配給

■大型映像の制作・配給

日本科学未来館では研究機関・映像制作会社など外部機関の協力を得て、オリジナルの大型映像作品を制作しており、国内外の多くの科学館等にて上映されています。

- 「FURUSATO
—宇宙からみた世界遺産—」
(2010年/37分)
配給：株式会社TBSスパークル

©日本科学未来館/TBSビジョン



- 「9次元からきた男」
(2016年/30分)
配給：株式会社五藤光学研究所
コニカミノルタプラネタリアム株式会社

©Miraikan



- 「INHERIT
～はやぶさ2・宙への夢と挑戦をのせて～」
(2022年/30分)
配給：ライトブレイン合同会社
コニカミノルタプラネタリアム株式会社

©Miraikan



大型映像の配給については、HPをご覧ください。

[ドーム映像の配給] <https://www.miraikan.jst.go.jp/resources/movie/>

オフィシャルパートナー

オフィシャルパートナーとは、日本科学未来館の理念に賛同し、活動を支援していただいている企業です。科学技術と社会とのコミュニケーションの活性化に資する活動に、未来館とともに取り組み、発信・展開しています。

■オフィシャル パートナー

RICOH
imagine. change.

株式会社リコー

AsahiKASEI

旭化成株式会社

花王株式会社

2023年3月現在

Miraikanアカウント(Miraikan ID)登録

Miraikan IDは未来館のさまざまなサービスをご利用いただくのに必要なメンバーシップです。

■年会費

無料

■登録者特典

メールマガジン「Miraikan News」の受信	未来館からのお知らせや最新のイベント情報を毎月第2・第4金曜日に配信します	
年間パスポートの購入	1年間、何度でも常設展に入場できるフリーパスです	
	大人(満19歳以上)	18歳以下(満6歳以上)
	1,250円(継続1,050円)	410円(継続310円)
未来館イベントの参加	会員限定イベントへの参加申し込みができます	

詳しくは、下記までお問い合わせください。

日本科学未来館 Miraikan ID担当 Tel: 03-3570-9151(代表)

ボランティア

展示解説、実験教室やイベントの運営支援など、ボランティアがそれぞれの持つ専門性をいかして活躍しています。

ボランティアには2つの活動形態があり、多様な活動を展開しています。

活動形態	レギュラーボランティア	サポートボランティア
活動頻度	年間12回以上かつ年間活動時間が72時間以上	年間12回未満または年間活動時間が72時間未満
活動内容	展示解説、来館者対応等	レギュラーボランティアに準じる
条件	高校生以上であり、未来館での活動に意欲と熱意をもって積極的に活動できる方	レギュラーボランティアに準じる

利用案内 1

■開館時間

10:00～17:00(入館券の販売は16:30まで)

■休館日

火曜日(火曜が祝日の場合は開館)、年末年始(12月28日～1月1日)

※施設保守のため臨時で休館日を設ける場合があります

※春・夏・冬休み期間等は火曜日も開館する場合があります

■入館料

常設展、ドームシアター、特別展を除くご利用にあたっては、無料で入館が可能です。

●常設展

大人 630円／18歳以下 210円／未就学児(6歳以下)無料

団体(8名以上) 大人 500円／18歳以下 160円

※土曜日は18歳以下無料

※障害者手帳所持者は本人および付き添いの方お一人まで無料(障害者手帳アプリ「ミライロID」も可)

※特別展は別料金

●常設展+ドームシアター

大人 940円／18歳以下 310円／未就学児(6歳以下)100円

※ドームシアターを鑑賞する方は、常設展もご覧いただけます。

※土曜日は18歳以下100円です。

※1日に2回以上ドームシアターを鑑賞する場合は、1上映につき大人310円、18歳以下・未就学児100円でご覧いただけます。

※障害者手帳所持者は本人および付き添いの方お一人まで無料(障害者手帳アプリ「ミライロID」も可)

●無料開放日

以下の日付は常設展のみ無料になります。

「科学技術週間」期間の金曜日、土曜日(2023年は4月21日(金)、22日(土))

「こどもの日」は18歳以下の方(2023年5月5日(金・祝))

「開館記念日」(2023年7月9日(日))

「敬老の日」は満65歳以上の方(2023年は9月18日(月・祝))

「教育・文化週間」期間の土曜日(2023年は11月4日(土))

利用案内 2

■館内設備

●駐車場

営業時間: 7:00~23:00

料金: 1時間440円、当日1日最大1,650円

台数: 車167台(身体障害者用 4台含む)

※大型バス20台(来館中 3,150円、事前予約不要)

●電気自動車(EV)充電サービス

・普通充電器

利用時間: 7:00~23:00 (地下駐車場利用時間に準ずる)

場所: 地下駐車場

料金: 無料 ※別途、駐車料金あり

台数: 18台

仕様: 6kw200V

・急速充電器

利用時間: 1回のご利用にあたり最長30分まで

場所: 地上駐車場

料金: 有料

台数: 2台

仕様: 50kw200V

●駐輪場

自転車、バイク 各10台程度

●シェアリングサービス

江東区コミュニティサイクル「docomo bike share service」 専用ポート

電動キックボード「Luup」 専用ポート

●来館者用トイレ

1階 2カ所 / 3階 2カ所 / 5階 2カ所 / 6階 1カ所 / 7階 1カ所

※各階に多目的トイレがあり、1,3,5階にはオストメイト対応トイレがあります

※1,7階のトイレには、おむつ替え台(大人サイズ)があります

●ベビーカー、授乳室

ベビーカーの貸し出しをしています

5階に授乳室があります

●救護室

看護師が常駐しています

●ロッカー

1階 コインロッカー 128台(100円:使用後に返金されます)

●飲食場所

7階展望ラウンジにて飲食が可能です

7階ドリンクコーナー(お食事はできません)

1階多目的ルーム隣と、7階ドリンクコーナーに、冷水器があります

1階多目的ルームは、団体のお客様の昼食場所として使用できます(要事前予約)

利用案内 3

■ バリアフリー情報

● 車いすをご利用の方向け

車いす・電動車いすの貸出あり／車いす対応トイレあり／ドームシアター内車いす留め置きスペースあり／
車いす利用者専用駐車スペースあり

● 聴覚に不自由がある方向け

筆談具あり／常設展映像コンテンツは字幕あり／ドームシアターは字幕上映やシナリオ貸出あり

● 視覚に不自由がある方向け

ドームシアターでは音声ガイドにて副音声を提供

● 特別支援学校・学級向け

展示見学サポートタブレット「ウェルカム! ナビ」貸出あり(軽～中度の知的障害の方向け)

● 小さなお子様連れの方向け

授乳室あり(男性も利用可)／おむつ替え台あり／ベビーカーの貸出あり

● 海外からのお客様向け

常設展内は日英表記(パネル、映像)／フロアガイドは日英中韓表記／ドームシアターは英語の音声ガイドあり

● トイレ

オストメイト対応トイレあり／おむつ替え台(大人サイズ)あり

● その他

盲導犬、介助犬、聴導犬と一緒にご入館いただけます／救護室に看護師1名が常駐／AED(自動体外式除細動器)あり／
礼拝室(個室)あり

※バリアフリー情報について、詳しくはHPをご覧ください

<https://www.miraikan.jst.go.jp/visit/accessibility/>



■ その他

● カメラ撮影

一部の展示物を除き、個人で楽しめる範囲内での撮影は可能です

※商業目的、複製、放映を目的とした撮影は、事前に許可が必要です

● 団体受付

団体予約、見学の下見、資料送付のお問い合わせはこちらへ Tel.03-3570-9188 (開館日の10:00～17:00受付)

ショップ・展望ラウンジ

日本科学未来館には、1階にミュージアムショップ、7階に展望ラウンジがあります。

■ミュージアムショップ（1階）

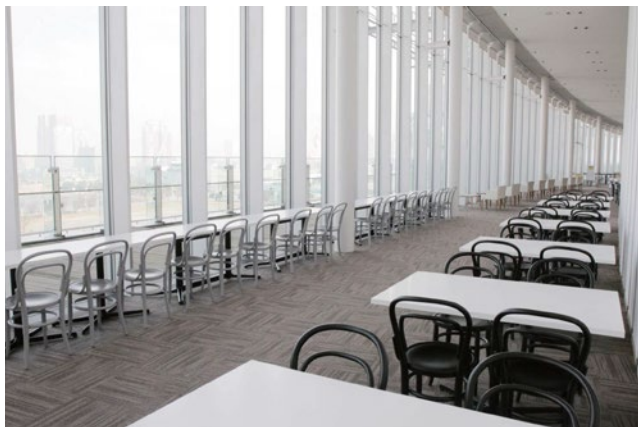


未来館のオリジナルグッズ、実験キット、書籍のほか、大人から子どもまで楽しめる科学関連グッズを多数取り揃えています。

営業時間：10:00～17:00

休業日：火曜日 ※休館日に準じる

■展望ラウンジ／レストラン（7階）



お台場周辺から東京タワーまで見渡せる休憩スペース。セルフサービス形式のレストランも併設。

開放日時／営業時間：10:00～17:00（開館時間と同じ）

休業日：火曜日 ※休館日に準じる

※営業時間等は、時期により変更する場合がございます。

設計と特徴

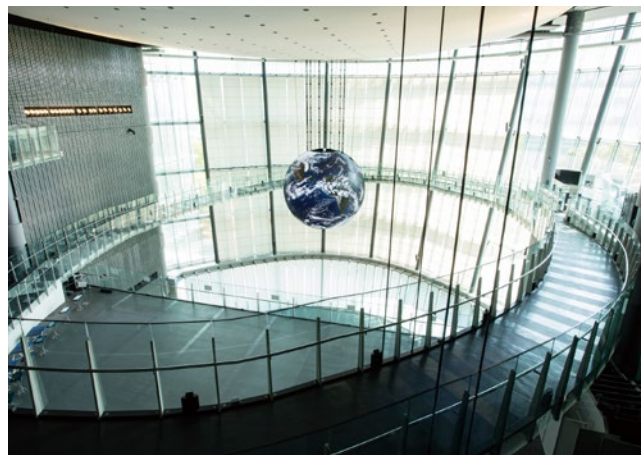
科学技術と人、人と人との交流の場をつくる、という建築コンセプトのもとに設計され、デザインや技術面においてさまざまな工夫がなされています。



開かれた施設を象徴するガラスの外装
直射日光の影響が少ない東～北面は透明強化ガラス(写真正面)、夕陽が当たる西面は半透明で断熱性の高いガラスが主に用いられ、透明感ある外観を作り出しています。



ダイナミックなスペース
エントランス空間やシンボルゾーンは自然光が溢れる吹き抜けの空間。エントランスから6階まで、各階はエスカレーターと連続階段で自然に繋がっています。



フレキシブルな展示空間
展示空間は、柱間隔が30mスパンの壮大なスペースです。正面東側は1階から6階までの吹き抜けで、3階から5階までをスロープでつないでいます。



スルーホール
建物を縦に貫くように挿入された10本の塔。屋上の太陽光追尾装置から光を内部に取り入れる「光の塔」、新鮮な空気の供給と排気を行う「風の塔」があります。

建築・設備概要

■ 建築概要

施設名	日本科学未来館
所在地	〒135-0064 東京都江東区青海2丁目3番6号
設計監理	日建設計・久米設計 設計共同企業体
設計協力	ランドスケープ: ジョージ・ハーグレイブス(基本設計のみ) / サイン: 廣村デザイン事務所 / 照明: LPA
施工期間	1999年12月～2001年3月
地域地区	防火地域、準工業地域
建ぺい率	46.51%(基準60%)
容積率	177.71%(基準200%)
道路幅員	西40m、北20m
面積	敷地面積: 19,636.65㎡ 建築面積: 9,133.59㎡ 延床面積: 40,744.03㎡[地下駐車場含む]
駐車場	面積: 5,737.84㎡ / 駐車台数: 175台(身障者用2台含む)
高さ	軒高: 42m / 最高高: 45m / 基準階高: 4.5m / 天井高: 8.0m(基準展示室)、3.0m(研究室) エントランス吹抜高: 25m(一部39m) / 展示スペース基準天井高: 8m(梁下部6m)
寸法	主なスパン: 30m×6m
階数	地下: 2階 / 地上: 8階 / 塔屋: 1階
構造	鉄骨造一部鉄筋コンクリート造
杭・基礎	回転圧入式鋼管杭・無排土工法

■ 設備概要

空調設備	空調方式: 単一ダクト方式、単一ダクト+FCU方式、空冷パッケージ方式 熱源: 地域冷暖房
衛生設備	給水: 圧力給水方式(上水・中水) 給湯: 中央方式(地域冷暖房)、個別方式併用 排水: 一般汚水・雑排水系統、実験排水系統
電気設備	受電方式: 22kV 50Hz 3回線 SNW方式 設備容量: 2000kVA×3台 契約電力: 1700kw 予備電源: ガスタービン発電機 6.6kV 50Hz 1250kVA
防災設備	直流電源設備、自火報・防排煙・ガス漏れ警報設備、非常放送設備、避雷設備、緊急救助用スペース照明設備 / 消火スプリンクラー設備(閉鎖型・放水型・予作動式)、泡消火設備、窒素ガス消火設備 / 排煙: 自然排煙、機械排煙
その他	ゴミ処理設備、地域冷暖房受け入れ設備
昇降機	乗用エレベータ(展示ゾーン) 24人乗 105m/min 2台 乗用エレベータ(バックヤード・非常用) 17人乗 105m/min 2台 人荷用エレベータ(バックヤード・非常用) 17人乗 105m/min 2台 荷物用エレベータ(バックヤード) 耐荷重 6000kg 30m/min 1台 乗用エレベータ(駐車場) 11人乗 45m/min 1台 エスカレータ(導入ゾーン) 幅1200mm 9000人/時 30m/min 10台
荷捌室	搬入口 有効開口 W5,250mm×H4,000mm および W3,750mm×H4,000mm
室内温度・湿度	温度: 17℃～28℃、湿度: 40%～70%
警備体制	テレビモニタ: 全館に設置(駐車場等含む) 監視場所: 1階防災センター 警備員: 24時間常駐

アクセス

日本科学未来館への交通手段には新交通ゆりかもめ、東京臨海高速鉄道りんかい線、路線バス、車などいろいろな方法があります。

■電車

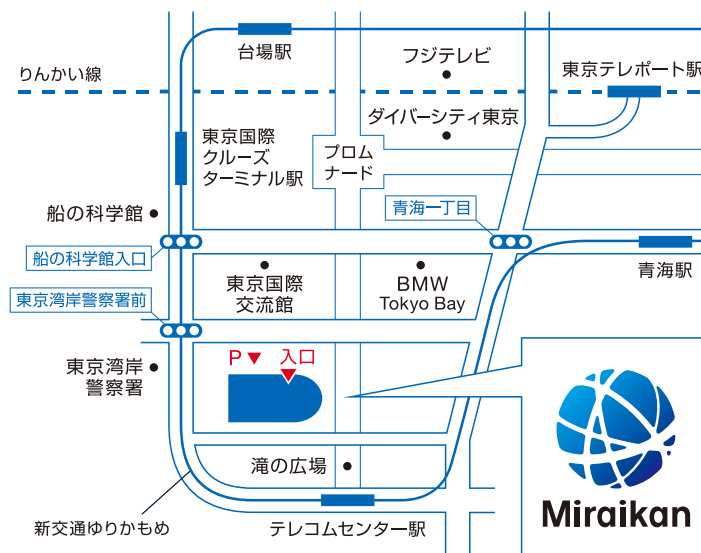
- ・新交通ゆりかもめ(新橋駅～豊洲駅)
「東京国際クルーズターミナル駅」下車、徒歩約5分
「テレコムセンター駅」下車、徒歩約4分
- ・東京臨海高速鉄道りんかい線(新木場駅～大崎駅)
「東京テレポート駅」下車、徒歩約15分

■路線バス

- ・都営バス(「日本科学未来館前」で下車)
海01「門前仲町駅～日本科学未来館前」
直行03(土日祝のみ運行)「錦糸町駅→日本科学未来館(片道のみ)」
急行05(土日祝のみ運行)「錦糸町駅～日本科学未来館」
急行06(土日祝のみ運行)「森下駅～日本科学未来館」
- ・京浜急行バス(「テレコムセンター駅前」で下車)
井30「大井町駅(西口)～テレコムセンター駅前」
森30、森40「大森駅～テレコムセンター駅前」

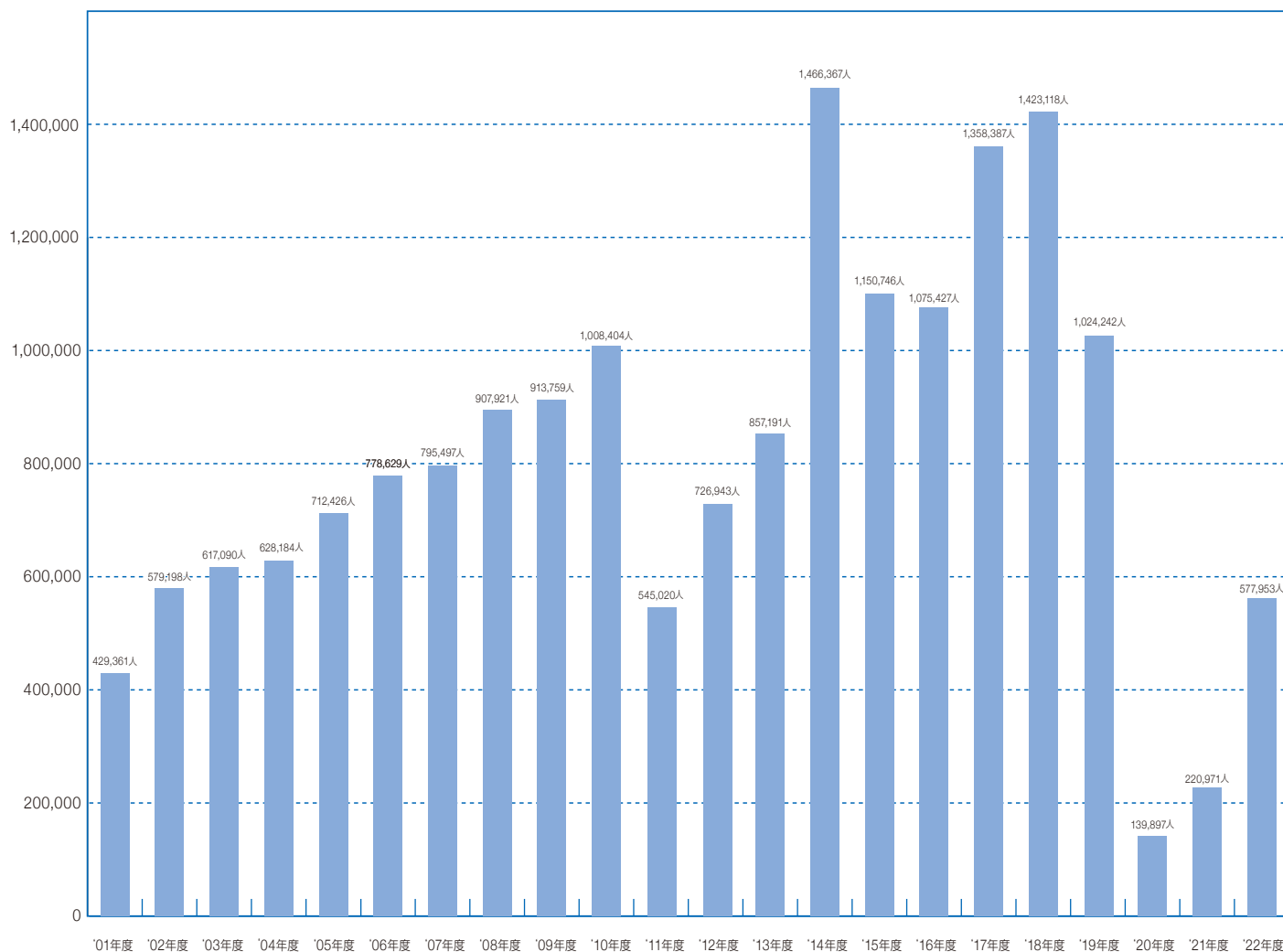
■車

- 〈首都高速から〉
 - ・都心方面からは、首都高速11号台場線でレインボーブリッジを渡り、「台場出口」で降りて約5分
 - ・羽田・横浜方面からは、首都高速湾岸線で東京港トンネルを通り抜け、「臨海副都心出口」で降りて約4分
 - ・千葉方面からは、首都高速湾岸線、「有明出口」で降りて約7分
- 〈一般道から〉
 - ・都心方面からは、レインボーブリッジ下層の一般道を渡って、レインボーブリッジ入口交差点より約4分



来館者データ

来館者数推移



年代別内訳 (2022年度)

